

## 第3次計画の指標と進行管理

資料4

1. 今こそ！地域の未来を見つめよう ○安定した農業経営と農地保全		
人農地プラン実質化 KPI：人・農地プラン実質化集落数 現状：29集落 目標：35集落		
指標	R7実績	内容等
①「人・農地プラン」の実質化	○ (47集落)	令和5年4月1日付の農業経営基盤強化促進法の改正に伴い、「人・農地プラン」は「地域計画」として法制化された。現在地域計画を作成している集落は53集落中、47集落。
②担い手への農地集積・集約化	○ (82.5%)	野洲市総合計画の目標値である80%を上回っている。
③水田野菜作付面積拡大	× (6.95ha)	水田収益力強化ビジョンで定めているR8作付目標面積（15ha）には届いていない。
④農業に対する正しい理解の周知	○	農村まるごと活動組織に対し、地域共同による農用地、水路、農道などの地域資源の基礎的な保全活動として、施設の点検・計画策定、草刈りなどの実践活動を支援している。
⑤耕作放棄地の発生抑制	○ (7.99ha)	荒廃農地の調査とともに、農業委員会のパトロールにより現地確認を実施しており、年々解消が進んでいる（R3時点の荒廃農地面積：22.84ha）
⑥有害鳥獣の適宜駆除	○	一般社団法人滋賀県猟友会野洲支部及びNPO法人H・W・E野洲支部の2団体に委託し、適宜有害鳥獣の駆除を行っている。R7実績はイノシシが58頭、アライグマが7頭、ハクビシン4が頭、カラスが314羽。

2. 今こそ！野洲スタイルを確立しよう ○多様な担い手育成・確保

担い手の法人化 KPI:担い手の法人化数 現状：18法人 目標：21法人

指標	R7実績	内容等
●担い手の法人化	○ (22法人)	目標である21法人を上回った。 法人化に係る相談があった際には、関係機関と連携し、支援している。
①新規就農者の確保	○ (2人)	R3～R7の認定新規就農者は2名。 適宜、関係機関と連携した就農相談や補助事業の活用等の支援に取り組んでいる。
②半農半Xへの支援	×	具体的な支援は出来ていない。
③スマート農業の導入推進	○	国の補助制度を活用し、ドローンの導入等、スマート農業に取り組む農業者を支援している。(R4、R7にそれぞれ1件)
④農業者間の交流機会創出	○	市内の大規模農業経営者で構成された野洲市農業経営者協議会や、地産地消を推進するまるかじり協議会等を通して、農業者間の交流機会を創出した。
⑤産地育成と特産品づくり	△	栽培管理の巡回指導や交付金を活用することにより産地育成を図っているところであるが、特産品の創出までには至っていない。
⑥企業参入・農福連携	△	相談があれば対応している(年1～2回程度)。企業参入や農福連携については、参入意欲のある事業者があるかどうかになってくる。

3. 今こそ！地域の魅力を伝えよう ○地産地消と食農教育

地産地消の推進 KPI：学校給食における市内産農作物の使用割合 現状：16.6%（R2年度） 目標：30%（R8年度）

指標	R7実績	内容等
①学校給食における市内産食材の使用率向上	× (12.1%)	令和7年度は8品目の使用があった。重量ベースで算出しているため、葉物野菜では実績が上がらない。重量ベース以外の算出が困難。
②園・学校での食農教育	○	児童自らが「育て」「収穫し」「食べる」という一貫した農業体験学習を実施する市内小学校の取組を「たんぼのこ体験事業」として支援している。
③農業体験型事業の促進	○	市民農園を運営し、市民が農作業に親しみ、野菜づくりの楽しさや収穫の喜びを体験できる機会を提供している。（89/116区画）
④おいで野洲まるかじり協議会との連携	○	市内産農林水産物をPRするイベントの開催、SNSを活用した情報発信、各種イベントへの参加による市内産農林水産物のPR、地産地消拠点施設の運営など、多岐にわたる取組を通じて連携を図っている。
⑤野洲市産農産物の情報発信	○	おいで野洲まるかじり協議会と連携し、情報発信を図っている。

4. 今こそ！環境保全で未来の価値を育もう ○環境保全と農の多面的機能

環境こだわり農産物 KPI：取組面積の拡大 現状：水稲591ha、大豆367ha（令和元年度） 目標：水稲640ha、大豆400ha

指標	R7実績	内容等
①環境こだわり農業の取組面積拡大	× 水稲479ha 大豆2ha	環境保全型農業直接支払交付金の対象作物の大豆が一部取組で支援対象外となったことから栽培面積が大幅に減少した他、水稲の栽培面積そのものが年々減少し、また、担い手の高齢化が進んでいること、夏季の高温対策を優先する必要があることなどから、栽培面積は減少傾向にある。
②魚のゆりかご水田のブランド力向上	○	湖岸地域の4集落で取り組まれている。
③化学農薬・化学肥料の低減	△	環境こだわり農産物（化学農薬および化学肥料の使用量を慣行の5割以下に削減する栽培）により推進しているものの、面積は減少傾向にある。
④有機栽培農業の取組拡大	○	環境保全型農業直接支払交付金を活用した取組を推進している。
⑤アセットマネジメント中長期計画	○	滋賀県農業水利アセットマネジメント推進協議会にて作成された中長期計画に基づき、施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を目指した。

5. 今こそ！野洲を楽しもう ○農業によるまちおこし

ふるさと納税返礼品（農作物ブランド化） KPI：ふるさと納税返礼品提供事業者数 現状：8事業者 目標：10事業者

指標	R7実績	内容等
①農に関する普及啓発活動支援	○	湖南地域農業センターの研修等の情報提供を行った。
②農商工連携（六次産業化の推進等）	△	直接的な支援は行っていないが、6次産業化プランナーを派遣する県の支援制度を案内するなど、適宜相談・支援に取り組んでいる。
③野洲市農業の魅力発信	○	おいで野洲まるかじり協議会と連携を図り、市内産農林水産物のPRを行っている。
④ふるさと納税返礼品開発	△ (8事業者)	農業者とのコミュニケーションを密にし、返礼品として設定できる作物の発掘を行っている。
⑤伝統野菜の復活	△	令和3年頃に兵主蕪（カブ）が復活したが、現在は生産されていない。現在は吉川ごぼうが生産されている。